

9. フィリピン (Philippine)

鈴木 絵美留

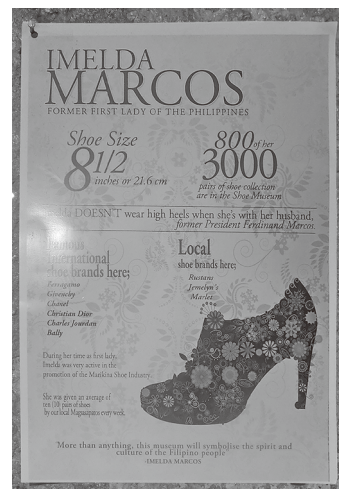
<前号 (211号) から続き>

マリキナ靴博物館について語るときには、どうしても避けて通れない部分があります。2025年5月現在のフィリピンの大統領はフェルディナンド・マルコス氏ですが、その母親は第10代大統領フェルディナンド・マルコス氏の妻、イメルダ・マルコス氏 (以下、「イメルダ氏」という。) です。ここではフィリピン政治の歴史的な話は割愛しますが、それでも、マリキナ靴博物館とこのイメルダ氏は切っても切れない関係であり、またフィリピンの靴産業についてもイメルダ氏の話を経ずには語れない部分でもあります。

靴をたくさん持っている女性のことを「○○○ (大体この○○○の中にはその人の住んでいる地域名が入りますが) イメルダ夫人」と呼んでいたりを聞いたことがある方もいるかもしれないですね。また、よく目にする記事として「イメルダ夫人は3,000足もの靴を所有していた」なんていうものもあります。ただこの3,000足の靴を所有していた話ですが、イメルダ氏ご本人が1987年のタイム誌のインタビューで「I did not have 3,000 pairs of shoes. I had 1,060.」(私は3,000足も靴を持っていなかった、1,060足よ) と述べています。のちにCNNやBBCなど世界的有名なニュースでも1,000足以上と報道されています。それでも1,060足はすごい数ですよ。一般家庭であれば、1,000足以上も靴を置く場所を確保するのが大変です。

イメルダ氏の靴にまつわるお話しは他にもいくつもありますが、このマリキナ靴博物館もイメルダ氏がかつて所有していたものの一部がコレクションとなり展示されています。

博物館内に貼られている解説には、イメルダ氏の3,000足のコレクションのうちの800足が博物館所有であると記載がありますので本当の所有数の真偽は不明です (この3,000足という数字に関してはPCGGというフィリピンの大統領行政規律委員会という組織が発表したものであります)。1992年に創刊された東南アジア初の日刊邦字紙「日刊まにら新聞」の2004年10月31日付の記事には、博物館設置構想のとき、イメルダ氏に数足の寄贈を求めると、同氏から778足が送られてきたと記載があります。



館内のイメルダ氏の靴コレクションについての解説

博物館内に掲示されている解説を見ていくと、彼女の靴のサイズは8 1/2インチ (21.6cm) と画像の掲示物には記載があるのですが、26.1cmの間違いではないかと思っております。ちなみに、イメルダ氏は、夫のマルコス大統領と居る時はハイヒールを履かなかったそうです。

彼女がファーストレディだった時に、大変積極的にマリキナの靴産業の宣伝をしてお

り、毎週イメルダ氏に地元の靴メーカーより平均して10足程の靴が送られてきたそうです。210号でお伝えした、東南アジア研究50巻1号(2012年7月)に掲載されている「海外製品流入とフィリピンの地場製造業—製靴業の事例から—」という論文の中でも、「国内産の靴を国際イベントに履いて行きフィリピン産をアピールし、知名度向上に寄与した」とあります。

彼女の靴コレクションの中には国際的に有名な靴のブランドのものもあれば、マリキナの靴ブランドも沢山含まれています。このように、イメルダ氏はマリキナの靴産業に深く関わってきたのです。



イメルダ氏のコレクションたち

展示されているコレクションを見ると、イメルダ氏が所有していた靴たちは同じデザインの色違いがカラーパレットの様に並んでいたり、現地工場で作っているマリキナブランド靴を各メーカーの名刺と共に陳列しており、マリキナ靴産業の多さにも驚かされます。フィリピンの著名人や政治家などが履いていた靴の展示コーナーもあります。

また、マリキナでは靴のデザインコンペも開催していて、この靴博物館にはコンペに出品された斬新なデザインの靴たちの展示もされています。

他にも靴の作り方の展示やミシンなど靴作りに関連するものが展示されています。

館内に入ると、中央の大きな柱に吊り下げられたたくさんの古い木型たちが、まず目につきます。



デザインコンペ出品の靴たち



靴の製作風景を再現

このように、多様な切り口でマリキナの靴産業を紹介する博物館となっています。

フィリピン訪問の際は、是非靴の街マリキナまで足を伸ばしてフィリピンの靴産業や博物館を見に行っていたいただきたいと思います。また、訪れる際は、開館時間や見学料金等、最新の情報を必ずご確認ください。

*画像は全て著者撮影



中央の柱の圧倒的な木型



博物館のエントランスの木型のオブジェ